



これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただくことができます

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

## 「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介①

9月3日(火)に行われた県少年の主張大会(尾花沢大石田地区)で、尾花沢中学校3年の三坂明日樂さんが見事「最優秀賞」に輝きました。明日樂さんは、最北ブロック大会でも「最優秀賞」となり県大会に出場しました。以下、主張した内容を紹介します。

### ■「成功の第一歩」

「こんなはずでは――」

高らかになるホイッスル。令和5年6月、2年生として挑んだ地区中総体。尾花沢中学校サッカー部が全敗に終わった瞬間でした。

チームとしての完成度には納得がいていたはずでした。3年生の人数こそ少なかったものの、学年間の仲が良く雰囲気も良好でした。それなのに、全敗。まさかの結果に、チームの誰もが、涙で立ち上がることもできませんでした。「どうして…？」今思えば、この悔しさが、本当の「仲間」になるために必要なことに気付く、第一歩になったのだと思います。

一週間後。思わぬ出来事が転がり込みます。なんと、なでしこジャパンをワールドカップ優勝に導いた元日本代表監督との練習会が決まったのです。何かが変わるなら。強くなるための技術は何だって盗もう。気合は十分に入っていました。

「負けた理由がわかった。」夢のような練習のあと、監督が口を開きました。どんな技術が、いや連携か。

「練習で使った道具、誰が片付けたと思う。」

え。誰もが固まりました。

「保護者の方が片付けてくれたよね。道具使った君たちが片付けないとダメだよ。そういうピッチ外のこともきちんとできないと。」

確かにそうだ。でもそんなことが。今一つ要領を得ないまま、それでも全員が少しずつ言われたことを意識するようになりました。

変化を感じたのは、9月の新人総体が近づいてからでした。「そういや、あいつ最近よく片付け手伝ってくれるな。」「あいつ、積極的に声出すし、周りがよく見えたプレーするよな。」「人間」としての良さが見えるようになってきたのです。その時、監督の言っているあのことが分かった気がしました。

私たちは、「選手」である前に、一人の「人間」です。サッカーができるかどうかよりも一歩前、まずは「人間」としての良さを見つける。そして、その「良さ」を互いに認め合うことで、「友達」でも「チームメイト」でもない「仲間」として認め合う、心でつながっ

たチームになれる。そのことを、監督は教えてくれたのではないか。そう感じました。

今年開かれた、夏のパリオリンピックでも象徴的なシーンがありました。体操男子団体、エースの橋本選手は、あん馬の演技最中に落下するなど思うようにいかない様子でした。それでも自分に託してくれる仲間を信じ、最後の鉄棒で素晴らしい結果を残しチームを金メダルに導きました。代表選手たちは、普段は別のチームに所属しているはずですが、それでも、同じ目標を目指す人間として認め合い、尊敬しあったからこそ、橋本選手を信じ切ることができ、その結果日本に感動をもたらすことができたのではないのでしょうか。

結局、僕たちのサッカー部は、体操男子団体とは違い、最後の大会で優勝することはできませんでした。それでも、チームの誰もが、口々に言いました。

「このメンバーで戦えてよかった。」

プレーでうまくいかななくても互いを認め支えあえるチームになることができた。その充実感に満たされていました。

私たちは時々、皆で目標に向かって頑張っているのに、あまり気持ちが上がらない人の悪口を陰で言ったり、その人に強く当たったりしてしまうことがあります。そんな時、その人にはその人の良さがあることを是非思い出してほしいと思います。きっと何か理由があるはず、じゃあどうやったらみんなで頑張れるのだろうか？そうやって前向きに考えられる人でありたいと、私は思います。どんな目標であっても、どんな人がいても、互いの良さを認め、一人の「人間」として認めること。それがきっと、成功の第一歩なのです。



【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課  
教育指導室長 工藤 雅史  
TEL 23-3330